

# トップレベルのレンコン産地を支える 儲かる経営体の育成

鹿行農林事務所行方地域農業改良普及センター

当普及センター管内では、新たにレンコン生産に取り組む生産者や、稲田をレンコン田に転換することにより規模拡大を図る生産者が増えています。そのような状況の下、普及センターでは、経営改善に意欲的な経営体に対する有利販売支援、診断施肥によるコスト削減支援、「稲田からレンコン田への転換マニュアル」の活用による水田高収益化の推進、外観品質低下を招くレンコン黒皮症の総合防除対策の推進などにより、レンコン産地を支える経営体の育成を図っています。

## 有利販売に向けた取組とコスト削減支援

有機栽培生産者に対しては、JAS認証やみどり認定の申請支援により、有機JAS認証面積を増加させました。

あわせて、取引先の要望に応えながら有利販売を図るため、レンコンの真空包装の取組を支援しています。

若手生産者等に対しては、差別化につながる品種を検討するため、民間育種家を講師に育種研修会を開催するなど、支援しました。

また、レンコン生産者に対しては、診断施肥によるコスト削減を支援しました。



写真1 レンコンの真空包装機（左）と試作品（右）

## 「稲田からレンコン田への 転換マニュアル」の作成

当普及センター管内で増加している、稲田から転換したレンコン田について、実証ほを設け、生育や品質を調査するとともに、転換の作業工程や費用をマニュアルとしてまとめました。

また、関係機関と連携して、転換時に活用できる事業もあわせて紹介することとし、鹿行農林事務所ホームページで公表しました。



図1 マニュアルの一部

## レンコン黒皮症総合防除対策の推進

登録のある2種類の農薬の併用で、レンコン黒皮症の被害が軽減することを実証結果で確認し、総合防除対策について広報誌や生産者が集まる機会を捉えて周知しました。

また、関係機関と連携して生産者への聞き取り調査を実施し、行方市を支援して作成したレンコン黒皮症防除対策実施計画に基づいて、引き続き防除対策を推進していきます。



写真2 レンコン黒皮症（左）と  
レンコンネモグリセンチュウ（右）